

受賞者の特徴等	<p>○六朝文学研究の第一人者で京都国立博物館館長を務めた興膳宏氏、日本画家で京都府立堂本印象美術館館長の三輪晃久氏らが特別功労賞を受賞。</p> <p>○京都府出身で演技派俳優として著名な近藤正臣氏、同じく京都府出身で平成30年にアカデミー賞メイクアップ・ヘアスタイリング賞を受賞した辻一弘氏らが功労賞を受賞。</p> <p>○ヴァイオリニストで、京都市交響楽団コンサートマスターの泉原隆志氏、平成30年12月23日に三世茂山千之丞を襲名した狂言師の茂山童司氏らが奨励賞を受賞。</p>
---------	--

	氏名	受賞者紹介	
特別功労賞	井端 泰彦	医学者	脳の構造と機能に関する研究により、概日リズム(体内時計)研究等の発展に多大な貢献。京都府立医科大学教授及び学長として、後進の育成に尽力。京都地域包括ケア推進機構の理事長として、医療・介護連携体制の強化にも取り組む。
	蔵田 裕行	声楽家	ドイツ歌曲の権威として数多くのオラトリオ、宗教曲のソリストを務め、格調高い演奏に定評があるほか、関西オペラ界の重鎮として、その振興・発展に尽力。京都市立芸術大学、関西二期会において、後進の育成に務める。
	興膳 宏	中国文学者	中国の文学理論、六朝文学研究の第一人者で、古代文書理論の理解を飛躍的に高めた。独立行政法人となった京都国立博物館の初代館長に就任し、新たな観客層の開拓にも尽力。
	三輪 晃久	日本画家	雄大な自然を繊細な筆致で描き、高く評価されている。東丘社代表や、京都日本画家協会理事長として、日本画の振興に大きく貢献。京都府立堂本印象美術館館長を務め、より親しみやすい美術館として平成30年にリニューアルオープンさせた。
功労賞	井上 裕久	能楽師 観世流シテ方	舞や囃子抜きの素謡を楽しむ「謡講」を約100年ぶりに再興し、上演されなくなった能の復曲や、新作能に積極的に取り組む。能を身近に感じてもらえるように常に創意を加えた活動を続ける。
	木代 喜司	彫刻家	京都を代表する彫刻家の1人として活躍し、子どもや親子、愛をテーマにした多くの作品を創作。また、全国高等学校野球選手権大会のメダルも制作。「手で触れる日展」の企画など、障害者の芸術活動の振興にも尽力。
	黒田 博	声楽家	モーツァルトの四大オペラから現代の新作まで、幅広い作品で活躍。二期会のトップ・バリトンとして日本のオペラ界を牽引。国立音楽大学教授として、後進の育成にも尽力。
	近藤 正臣	俳優	数多くのテレビドラマ等に出演し、演技派俳優として高く評価される。近年は、NHKの大河ドラマや連続テレビ小説などの話題作に出演し、個性的な人物を熟演し、独特の存在感を示している。
	高谷 史郎	芸術家	アーティストグループ「ダムタイプ」創設メンバーとして世界各地で公演、展示を行い、映像・音響・パフォーマンスなどによる作品は国内外で高い評価を得る。個人としても、メディアアート表現を切り拓き、独自のシャープな視覚効果を持った世界を表現。
	辻 一弘	現代美術家・メイクアップアーティスト	現代アート、ハイパーリアルアートの分野で、肖像彫刻の先駆者として高い評価を受ける。平成30年に『ウィンストン・チャーチル／ヒトラーから世界を救った男』でアカデミー賞メイクアップ・ヘアスタイリング賞を受賞。
	常磐津 都毘蔵	常磐津節 三味線演奏家	優れた舞台演奏で、京都をはじめ、全国の劇場に出演。(一社)関西常磐津協会理事長として、常磐津の研究・保存に尽力する一方、大学講師として、若い人に常磐津の魅力を伝える活動を続ける。
	松井 利夫	陶芸家	「生きるための道具としての器」の本質に迫り、現代の「民藝」としての作品制作や、使われなくなった器をアート作品として再生するなど、従来の陶芸の枠にとらわれない型破りで多彩な活動を行う。
奨励賞	泉原 隆志	ヴァイオリニスト	ソロや室内楽奏者として、優れた演奏活動を行う。30歳の若さで、京都市交響楽団コンサートマスターに就任し、オーケストラを牽引している。
	檜木 知子	画家	淡い色調と平滑なテクスチャーで、一見、日本画を彷彿とさせ、人物像を中心に据えた独特の世界観を有する作品に定評があり、VOCA展2009では、「VOCA奨励賞」受賞。
	茂山 童司 (三世 千之丞)	狂言師・喜劇作家	大蔵流狂言師としての活躍に加え、バイリンガル狂言や喜歌劇、若手アーティストや劇団との共演に取り組むなど、表現者として新境地を切り開いている。平成30年12月に、三世千之丞襲名。
	長谷川 雅也	日本画家	心からあふれ出す想いを表現した、爽やかな中にも深い趣のあるブルーで描く日本画に定評がある。日春展日春賞や、日展特選などを受賞。
	八木 良太	メディアアーティスト	音や時間に関する作品を、音響、オブジェ、映像、インスタレーションなど幅広い表現方法で独自の世界観を表現。六甲ミーツ・アート2015グランプリなどを受賞。

(年齢は受賞日現在)